

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 1270400821 | | |
| 法人名 | 株式会社 武上 | | |
| 事業所名 | グループホーム ノーマライ心の花御成 | | |
| 所在地 | 千葉県若葉区下田町1263-56 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年3月9日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年8月31日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと | | |
| 所在地 | 千葉県千葉市稲毛区園生1107-7 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年3月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人の理念である『明るく楽しく笑顔で共に暮らす そして人として心の花を咲かそう』を、スタッフ一人一人が理解し、体現に努め、入居者様に対する日々のケアに従事している。入居者様の笑顔を引き出す事は基より、事業所名にもなっている『ノーマライゼーション』の由来のように、障害の有無に関わらず、入居者様お一人お一人のペースに合わせ、入居者様に寄り添いながら、これまでの生活を出来る限り継続していけるよう、日々のケアを提供している。家庭的な雰囲気の中で、入居者様とスタッフの顔なじみの環境を大切にし、その方々の認知症症状に合わせた、柔軟に想いに寄り添うケアを心掛けています。事業所を開設し、約17年が経過し、ご本人・ご家族様の希望に合わせ、看取り対応も行っており、自然な最期を迎えられた方もおられる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念である『明るく楽しく笑顔で共に暮らす そして人として心の花を咲かそう』を、スタッフ一人一人が理解し、体現に努め、入居者様に対する日々のケアに従事している | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で、なかなか地域行事等への参加が難しい状況下ではあるが、私達も地域の一員であると共に、地域の中で生かされている事を常に意識し、地域との繋がりや交流について、スタッフ間で日々検討し、交流を図る機会を大切にしている | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 敷地内の掲示板を活用し、情報発信を行っている他、認知症サポーターを持ったスタッフも従事しており、コロナ禍が終息したら、認知症カフェや啓発活動等、地域包括支援センターと情報共有を行いながら、地域の方々との交流を図っていきたいと考えている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 入居様・ご家族様・自治会長・地域包括支援センターの方々からの忌憚なきご意見・ご要望に真摯に耳を傾け、より質の高いケアの提供や、事業所運営に生かせるよう、代表者・管理者だけでなく、幹部間での情報共有を密に行っている | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 代表者や管理者を中心に、行政担当者や、地域包括支援センターの担当者との情報共有や、意見交換等を行い、適正な事業所運営に反映させている | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての正しい理解を身につけ、日々のケアに従事すると共に、スピーチロック等にも十分に注意し、お互いに注意し合える風通しの良い職場環境の構築に努めている。また、身体拘束をしない為にはどうすべきかを常に検討を重ね、代表者や管理者等の縦割りに捕らわれず、事業所全体の問題として取り組んでいる | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待に関する年1回の法定研修だけでなく、新入社員を含め、正しい理解を身につけ、人生の先輩である入居者様に対する日々のケアとは何かを、常に意識しながら、虐待行為が見過ごされる事のない環境作りに努めている | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者や計画作成担当者を中心に、その方に合った制度や支援事業等について、常にアンテナを張り、また必要に応じて適切に結び付けていけるよう、法人内での情報共有も行っている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結時及び、介入開始時は基より、サービス提供や変更等に伴う、入居者様・ご家族様の不安の軽減・解消に努められるよう、丁寧な説明を心掛け真摯に向き合っている。また、一度に限らず、十分にご理解し納得頂けるまで話し合いの場を設ける事で、苦情等を未然に防ぎ、適正なサービス提供に努めている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議の場に限らず、家族会や各々のご家族様とのSNSでのやり取りを含む環境を整備し、設ける事で、一方的なケアの提供ではなく、忌憚なきご意見や要望を頂戴出来る場を創設し、それらを事業所運営に反映していけるよう、代表者・管理者だけに限らずスタッフも共有し、日々のケアに取り組んでいる | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者や管理者等の縦割りに捕られる事なく、率直な意見交換や話し合いの場を持つ事が出来る柔軟な社風を大切にし、現場の声を事業所運営に反映させていけるよう、幹部間での情報共有も行っている | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各々のスタッフの就業意欲・実績だけでなく、将来のビジョンやスキルアップ等、キャリアパスの整備に力を入れ、意欲的に就労出来る職場環境の構築に努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 介護未経験者(無資格者)から、中途採用者(有資格者)まで、様々な人材に対し、より実力を発揮出来るよう各々のスピードに合わせた人材育成を実施すると共に、OJTに力を入れる事で、離職者を少なくしスタッフが定着出来る環境作りに取り組んでいる | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍で、なかなか積極的な動きはないが、offJTや新入社員を含む各々のスタッフのキャリアパスに合わせた研修への参加を促していく事で、横の繋がりを作り、それらが巡り巡って事業所の運営に生かされていく事を望んでいる | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回面接時だけに限らず、ご本人からのアセスメントをしっかり行い、丁寧に話に耳を傾ける事で、課題分析に繋げていっただけでなく、信頼関係の構築と、リロケーションダメージを少なくする事が出来るよう努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご本人だけでなく、生活環境が変わってしまう事への不安を抱えやすいご家族様に対し、今までの生活環境と施設入居時の生活のすり合わせを行うだけでなく、ご本人らしい生活スタイルの確認・把握等の作業を丁寧に行事で、リロケーションダメージを少なくする事に努め、早期の信頼関係の構築や、顔の見える関係作りに努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 自事業所のサービス提供だけに拘らず、その方に合わせたサービス形態の選択や、その方からの生活がその方らしく送れるよう、より専門的な視点からの相談・紹介等のサポートが行えるよう、同業者との連携に努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯物たたみや、裁縫、絵画等の個別での関わりの中で、ご本人の有する力を大切に家事レクに取り組んでもらったり、歳時の知識等について教えてもらったりしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 各々のご家族様とのSNSでのやり取りを含む環境を整備し、設ける事で、一方的なケアの提供ではなく、忌憚なきご意見や要望を頂戴出来る場を創設している。また、面会時は近況報告等を行い、情報の共有に努めている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍にあり、面会謝絶にはなっていますが、馴染みの人や関係者が来訪しやすいよう、御家族様から情報収集をしつつ、職員が関係構築・継続に努めている | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ユニット内で、色々な人と関わられるように席替え等を行ったり、スタッフ自身がコミュニケーションツールとなり橋渡しを行ったり、こまめな声掛け・対応を行う事で、入居者様が孤立しないよう心掛けています | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご家族様との関わりを断つことなく、情報の共有を行ったり、退去後の生活の場の紹介や案内等、スムーズに次のサービスに繋げていけるようサポート体制を敷いている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 初回面接時、アセスメント時だけでなく、入居後の生活がご本人様・ご家族様の意向に沿えるよう、スタッフ全員で情報の収集・共有に努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居者様に確認するだけでなく、ご家族様にアンケートを実施し、全体像の把握に努め、今までの生活の場面を点と点を結びつけ、線にしているよう努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の暮らしの中で、過ごし方・心身状態の把握に努め、申し送りや連絡帳等で共有し対応出来るよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | スタッフが得た情報をミニ会議やカンファレンス、意見交換等を行うだけでなく、リアルタイムで電子機器を駆使し共有していく事で、ご本人の自立支援に向けた介護計画の作成に努めている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | その場で気づいた事等をミニ会議やカンファレンスにて意見交換したり、申し送りとしてノートに記載するだけでなく、リアルタイムで電子機器を駆使し共有していく事で、職員が共有できるようにしている。また、随時検証も行なっている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 自事業所のサービス提供だけに拘らず、その方に合わせたサービス形態の選択や、その方からの生活がその方らしく送れるよう、より専門的な視点からの相談・紹介等のサポートが行えるよう、同業者との連携に努めている | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の子育てリラックス館のクリスマス会や運動会に呼んで頂いていたが、今年度は感染予防の観点から参加できていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前に診療を受けていたかかりつけ医を継続するか、往診対応を含め、看取りを含む柔軟に対応を行って貰える事業所のかかりつけ医に変更するかを相談し、入居後も状況に応じて相談・対応・連携を行っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員は日々の様子を観察し、何かあれば些細な事でもすぐに看護職員へ相談し、入居者が適切な受診等を受けられるように支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 地域医療連携室のMSWと、地域医療連携シートを通し情報共有を行うと共に、入院時の経過の確認を含め、連携を図っている。また、かかりつけ医として往診対応を依頼しているクリニックとも常時連絡が行え、随時相談・受診等が行えている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化・終末期には、ご本人様・ご家族様との相談・密な連携の下、出来る限り自然な形で最期を迎えられるよう対応させて頂き、看取り対応の実績もある。また、希望に沿えるようなケアの提供が行えるようスタッフも知識・経験を積めるよう、OJTを行う等、自己研鑽に取り組んでいる | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変・事故発生時に備え、マニュアル検討・情報の共有は行っているが、今年度は訓練までには至っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防(総合防災)訓練は行っており、災害時のマニュアルも作成しているが、地域との合同訓練には至っていない | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 集団生活の中で一人一人の状態を把握し、プライバシーの保護・人権の尊重、羞恥心への配慮等に取り組み、個別での声掛け方法・対応等にも十分配慮し、ケアの提供に努めている | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々のコミュニケーションを十分に図り、ご本人の意向の確認・把握に努めるだけでなく、自己決定・選択の自由が出来るよう環境に留意し、希望に沿えるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 集団生活なので全ての希望に沿えている訳ではないが、可能な限り一人一人が自分のペースで生活を送る事が出来るよう、スタッフ全員で連携し努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の希望・意思を確認・把握し、衣類の選択や身だしなみを整えるだけでなく、化粧やマニキュア等のおしゃれが出来るように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 皆で食卓を囲み、食事を楽しくするよう席配置・環境に留意したり、食事の準備・片付け等の中で感じられる生活音や匂い等にも配慮し、おしぼり作り等、出来る範囲で行なってもらえるよう支援している | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 日々の各々の状態把握に努め、食事(水分)摂取量・摂取カロリー、既往歴・現病歴等を考慮し、何かあれば主治医等に連絡・相談し、指示を仰ぎ提供している。また、食事摂取量・水分量等は毎日タブレットにて記録している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 誤嚥性肺炎の予防だけでなく、毎食後の口腔ケアの声掛けや入居者様に合わせたご本人の有する力だけで出来ない部分の支援を行う事で、気持ちよくコミュニケーションを図る事が出来るよう配慮している。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 『トイレに座り、気持ちよく排泄したい』という、私達が考える当たり前の行為を当たり前に行えるように配慮し、排泄パターンの把握に努める他、安易におむつ使用に至らないよう、こまめなトイレ誘導と、清潔保持に配慮している | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | なるべく内服薬に頼らない便秘の予防に努め、ストレスも便秘の原因に繋がるという事を考慮し、日々の水分摂取量の確認や排泄パターンの把握、腹部マッサージの実施等、自然に排泄出来るよう努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 身体の清潔保持だけでなく、気持ちよく入浴するという当たり前の行為を当たり前に行えるよう、室温、照明、時間、声掛け方法や浴室への誘導方法、羞恥心への配慮等に十分配慮し、ケアの提供に努めている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 寝具等を定期的に交換し、衛生的な住環境の整備に努めるだけでなく、日中は離床し活動し、夜間はぐっすり眠れるような生活リズムの構築にも着目し、日々のケアの提供に努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 子会社が調剤薬局であり、オンラインを含む服薬指導を居宅療養管理指導として定期的に受ける事で、職員が管理している内服薬の重要性を再認識するだけでなく、より興味を向け、また誤薬等を未然に防ぐ事が出来るような環境の整備が出来ている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々の生活の中でも、各々の入居者様が輝ける場を創設出来るよう、『できること』や『できそうなこと』に着目した、無理強いない生活の中でのRHを見つけ出し依頼する(一緒に行う)事で、その方らしさを失う事のないよう工夫しながら、ケアの提供に努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 積極的な外出機会の創設には至れない状況下ではあるが、ベランダに出て外の空気に触れたり、スタッフと共に事業所周辺の散策に出掛ける事で、季節の移り変わり等を感じられるよう努めている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | コロナ禍もあり、外出の機会の創設が困難な状況下ではあるが、買い物等を通し、今まで行っていた行為を奪う事のないような環境作りを検討し、随時対応を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状のやり取りやテレビ電話等、ご家族様や大切な方々との交流が施設入居をきっかけに途絶えてしまう事のないよう配慮し、橋渡しができるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 認知症を患っておられる方はご自身にとっての居心地が良い環境に対し敏感に感じる事を理解し、スタッフ自身もまた、入居者様から見れば環境の一部である事も踏まえ、居心地の良い環境とは何かを常に考えながら、日々のケアの提供に努めている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルを3つ設置し、気の合う方同士で声を掛け合える場所を創設している他、ソファも2箇所に分け設置する事で、ゆっくりマイペースに時間を過ごして頂けるよう、スタッフ各々が考え、環境整備に努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人に馴染みのある家具や寝具、小物等を積極的に持参して頂き、可能な限り今まで暮らしておられた環境の延長線上に、事業所があるよう、入居者様・ご家族様にも十分に説明し、理解を得て、環境の意識的に取り組んでいる。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリーな環境は基より、見守りが利くよう死角が少ない構造になっており、スタッフの目が行き届きやすい環境下で、より入居者様が残存能力を生かした生活が送れるようになっている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと